

世界とつながるために



ロンドン大学
クイーン・メアリー校

小沢百々子

H24.4 国税庁 長官官房 人事課
H25.7 国税庁 課税部 審理室
H26.7 名古屋西署 国税調査官
H27.7 財務省 主税局 調査課
外国調査第二係長
H29.7 国税庁 長官官房 企画課
企画第一係長
H30.7 国税庁 長官官房付
(ロンドン大学クイーン・メアリー校)

“Kampai” to the world.



国税庁 課税部 酒税課
課長補佐

永原 惟

H22.4 国税庁 長官官房 広報広聴官付
H23.4 国税庁 徴収部 徴収課
H24.7 東住吉署 国税調査官
H25.7 国税庁 調査査察部 調査課
国際情報第一係長
H26.5 国税庁 課税部 課税総括課 企画係長
H27.7 国税庁 課税部 個人課税課
審理第二係長
H28.7 内閣府 地方創生推進室 参事官補佐
H29.3 国税庁 長官官房 法人番号管理室
課長補佐
H30.7 国税庁 課税部 酒税課 課長補佐

係員

係長/留学

課長補佐

企画官

国税局部長

本庁課長/国税局長

ヨーロッパの中心で税を学ぶ

観光客で賑わう大英博物館のすぐ近く、ロンドンでも屈指の繁華街に、私の通うロンドン大学クイーン・メアリー校のロースクールはあります。私はそこで税法を専攻し、主に国際課税について学んでいます。国際課税の分野は日々進歩しており、授業は難解ですが、取り上げられるトピックはどれも非常に興味深いです。大学の雰囲気はかなり国際的です。ヨーロッパは勿論、メキシコ、インド、マレーシア、パキスタン・・・様々な国から留学生が集まっています。彼らは教室で、時には大学近くのパブでエールとフィッシュアンドチップスを片手に、自国の税制について熱く意見を交わします。

留学したからこそ分かること

国税庁からの留学生として、日本の税制について聞かれる機会も多いのですが、これまでの配属先での経験が役立っています。私の場合、税務訴訟を扱う部署や諸外国の税制を比較調査する部署にいた経験をベースに、様々な国の学生や教授と話をすることで、税に対する理解がより深まるように感じます(同時に自分の英語力のなさも痛感しますが)。また、彼らと話して、日本との制度設計思想の違いに驚くことも多々あります。

こうした気づきを得られることも留学のメリットであり、帰国後の職務に生かせればと思っています。

留学のススメ

留学のもう一つのメリットは、現地の空気に長期間触れられることです。休日にはあちこちを訪問してヨーロッパの歴史の一端に触れ、彼らの考え方のバックグラウンドを知る。これは税の世界だけでなく、今後国際的に仕事をしていく上でも重要な経験になると思います。

国税庁では、多くの職員が海外留学に派遣されています。国税庁に興味を持って下さる皆さんが、留学にも興味を持っていただければ嬉しいです。



係員

係長/留学

課長補佐

企画官

国税局部長

本庁課長/国税局長

“Kampai” to the world.

同僚と仕事について熱く議論を交わすとき、友人と土日の旅行先の相談をするとき、家族と将来の話をするとき――思い返せば私のそばにはいつもおいしいお酒があった。

お酒が飲めるようになって10年近く、身近な人たちとたくさんの「乾杯」を重ねてきたが、今の私の仕事は、世界に向けて「乾杯」することだ。

日本産酒類の競争力強化・海外展開の推進

国税庁は、その使命のひとつでもある「酒類業の健全な発達」を目指し、また、政府全体の取組であるクールジャパン推進の一環として、日本酒や焼酎・泡盛、日本ワイン、ウイスキーなどの日本産酒類輸出拡大に向けた取組を進めている。例えば、フランスやイギリスでのPRイベント、ドイツでのビジネスマッチング。日本産酒類の輸出促進のために、海外ではどんな日本酒や日本ワインが好まれるのか、焼酎や泡盛をカクテルにして試してもらうなど、あらゆる角度からのアプローチを行う。

そのほか、各国要人やプレスが集まる機会を活用した情報発信や、海外の酒類専門家の招聘、さらには、各種国際交渉の機会を通じて、輸入関税の撤廃、非関税障壁の改善、日本産酒類

の地理的表示の保護を求めるといった取組みも重要な業務のひとつである。

変わること、変わらないもの

入庁9年目、課長補佐3年目、酒税課1年目。毎年変わっていく業務内容の中で、どの部署にいても、どこに出向していても、国を支える税に携わっていることを忘れずに、でも、いつでも新しい視点で、そのときできる一番の仕事をしたい。

みなさんの輝かしい未来の選択肢に国税庁が加わり、いつか同僚として、おいしいお酒を囲みながら(お酒なしでも)、議論が交わされる日を夢見て――乾杯!

